



血糖をコントロールする新しい仕組みを発見

概要：本学医歯薬学総合研究科生体膜機能生化学の表弘志准教授、九州大学医学部坂本昌平（博士課程）、味の素株式会社らの研究グループは、VNUT（Vesicular Nucleotide Transporter, 小胞型ヌクレオチドトランスポーター）遺伝子破壊マウスでは、ATPの分泌が無くなると同時に血糖値が低下し、インスリンに対する感受性が増加することを発見。ATPが血糖値の調節に関わっていることを確認しました。本研究成果は、2014年10月21日（日本時間19:00）にNature Publishing Groupが発行する「*Scientific Reports*」において公開されました。

ATPは細胞間で情報を伝える分子として幅広く使われています。ATPは細胞内の小胞に蓄えられていて、刺激が来ると小胞内のATPを細胞外へ放出します。放出されたATPは標的となる細胞の受容体に結合して情報を伝えます。VNUTは、細胞内の小胞にATPを運ぶタンパク質で、ATPを用いた情報伝達に不可欠な役割を果たしています。

発表資料はこちら

http://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/soumu-pdf/press26/press-141021-1.pdf

<お問い合わせ>

岡山大学大学院医歯薬学研究科 生体膜機能生化学

准教授 表 弘志

（電話番号）086-251-7935